

武蔵野

# 最高の品質、労働環境追求

# 圧倒的な差別化実現を

武蔵野は9月29日、セブンイレブン専用工場・群馬工場（群馬県高崎市綿貫町字池田）の竣工式を行った。同工場は従来の群馬工場から約4 km離れた場所に新設したもので、敷地面積約2万6000㎡、延べ床面積約1万4000㎡の大型工場です。同社は従来、

## 群馬工場竣工

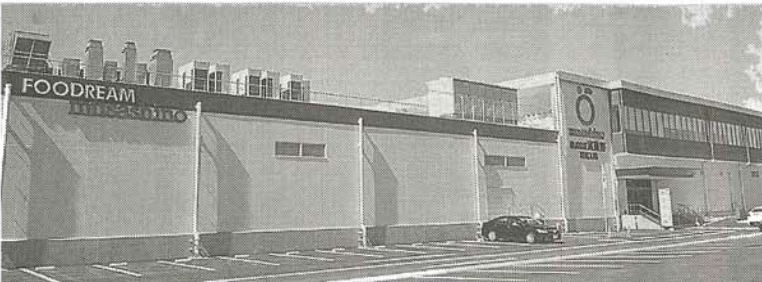
同社北関東の拠点となる。

安田信行社長は「工場コンセプトは、働きやすい環境でさらなる安全と安心でおいしい料理を作るである」とあいさつし



安田信行社長

## 北関東の拠点



武蔵野群馬工場外観

件として選別させていた  
だけ、約3分の2の入居  
が決まったところであ  
る」と述べて、武蔵野が  
高崎市の優良企業の象徴  
として発展することを祈  
念した。

て、1階の製造ラインは130mのワンウエイで効率的かつ衛生的な理想の構造にし、NDF生産管理支援システムを導入して作業効率を高め、ロボットを使用した自動化設備（蓋掛け・下取り）および番重搬送設備の導入で作業者負担の低減を図るなど、品質でも労働環境でも最高を目指す挑戦をしたと抱負を述べた。

来賓として、青山誠一セブンイレブン・ジャパン執行役員QC・物流管理本部長は「前身となる群馬工場は1986年の竣工で、当時のセブンイレブンは全国で3000店を達成しようとしている時期であり、群馬県環境にやさしいことを条

工場の生産能力は、弁当3ライン／おにぎり10ライン／寿司1ライン／チルドパン7ライン／チルドライン／炊飯90釜×2ラインで、生産品目は米飯（弁当・おにぎり・寿司）／チルド（弁当、惣菜、調理パン）である。米飯は特殊加工した炊飯釜の使用で高火力炊飯によるふっくら・おいしいご飯を実現し、チルド商品に生野菜を多用することから野菜処理室は鮮度重視・遺物対策を強化した。また、フードディフェンスでは入退室ゲートIIゲート型金属探知機の導入、手指チェック専用端末による履歴のデータリテイクに備えている。

富岡賢治高崎市長は「関越自動車道の高崎玉村スマートインター下り入り口に4haの産業団地を造成して入居企業を募集したところ、面積の倍の応募をいただいた。そこで、地元住民の雇用や環境にやさしいことを条

（福島厚子）